

## H22 年度第 1 回保全事業報告会



### <開催日時>

---

- 平成23年2月20日(日)13:30-15:00 谷津干潟自然観察センター(59 名)
- 平成23年2月22日(火)19:00-20:30 谷津干潟自然観察センター(19 名)

### <説明内容>

---

- 国指定谷津鳥獣保護区保全事業について
- 底質改良試験について

※資料

[保全事業について.pdf](#)

[底質改良試験について.pdf](#)

# 国指定谷津鳥獣保護区 保全事業について

環境省関東地方環境事務所野生生物課

## 1. 谷津干潟の位置付け

### ○ 特徴

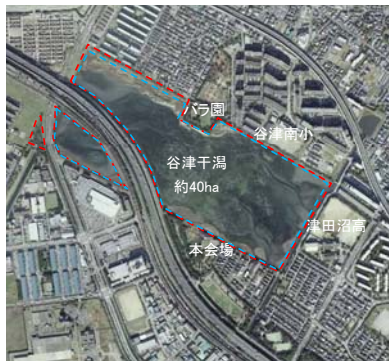
- ・ 都市部に位置する貴重な泥干潟
- ・ 栄養が多く、干潟の生き物が豊か
- ・ 年間を通じて多くの野鳥が利用（シギ・チドリ類の渡来地）
- ・ 野鳥の観察地、散策・休息の場



### ○ 位置付け

- ・ 国指定谷津鳥獣保護区 (S63)
- ・ ラムサール条約登録湿地 (H5)
- ・ 東アジア・オーストラリア地域シギ・チドリ類重要生息地ネットワーク参加 (H8)

## 1. 谷津干潟の位置付け



国指定谷津鳥獣保護区  
(特別保護地区)  
ラムサール条約登録地

## 2. これまでの調査経緯

### ○ これまでの調査経緯

#### ● H17～H18年度

- ・ アオサの繁茂と堆積・腐敗、泥の流出

↓

- ・ 鳥類の生息地としての干潟環境の悪化
- ・ 周辺生活環境の悪化

#### ● H19・H20年度

- ・ 鳥類の生息地としての干潟環境へ及ぼす影響
- ・ 実証試験(底質改良)の事前調査

#### ● H21年度

- ・ 実証試験(底質改良)の事前調査(モニタリング)の継続

## 2. これまでの調査経緯

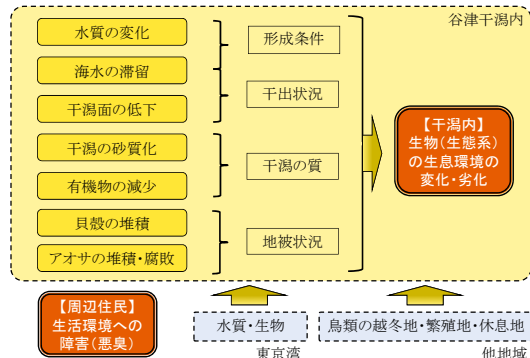
### ○ 環境変化

- ・ 東側の底質が砂っぽくなった
- ・ 東側の滞りが埋まった
- ・ 西側湾岸道路北の干潟面が掘れた
- ・ アオサが広範囲に年中繁茂
- ・ 水質が変わった(塩分の上昇等)
- ・ 貝殻が増えた
- ・ 鳥の飛来数が減った ……など



## 3. 谷津干潟における環境保全上の課題

### ○ 課題



#### 4. 国指定谷津鳥獣保護区保全事業

##### 【位置付け】

##### 国指定谷津鳥獣保護区

- 目的  
鳥類の保護・生息地の保護
- 指定要件  
集団渡来地

##### ラムサール条約登録湿地

- 目的  
湿地の保全と賢明な利用
- 湿地の特徴  
泥質干潟、シギ・チドリ渡来地

##### 【保全すべき対象】

鳥類(シギ・チドリ類)が  
渡来(採餌)できる干潟環境の保全

周辺住民の生活環境の保全  
(アオサ悪臭対策)

##### ○ 環境省の取り組み

- ・ 科学的に解明し、具体的な対策を講じる  
⇒国指定谷津鳥獣保護区保全事業の創設(H22年度～)

7

#### 5. これまでの対策実施状況

アオサ対策、干潟環境調査などを継続実施



2010年7月



2009年9月



2006年8月



2005年9月

8

#### 6. 今年度の調査・検討内容

- 現地調査: 対策の具体化に向けた現地調査(地形・流れ)
- 解析検討: 原因究明、数値シミュレーション(流れ)
- 実証試験(底質改良): 対策の具体化に向けた実証試験
- 保全事業の計画検討: 基本計画の概略検討
- 地域住民との連携: 周辺住民への説明・報告
- 学識経験者による助言

⇒本日、実証試験(底質改良)を先行的に実施、  
モニタリングしていくことについてご説明

9

#### 7. 今後のスケジュール(案)

	平成22年度	平成23年度	～	平成26年度
現地調査	対策の具体化に向けた現地調査			
解析検討	原因究明		対策検討・将来予測	
実証試験	底質改良⇒モニタリング・評価			
	他の対策⇒モニタリング・評価 ※例えば、海水滞留改善・アオサ対策など			
保全事業の計画検討	基本計画		実施計画	
保全事業の実施	緊急的な対策の実施(アオサ回収) ※H14年度より継続実施			
	有効な対策の実施			
地域住民との連携	説明会		協議・協働	

10

## 底質改良試験について

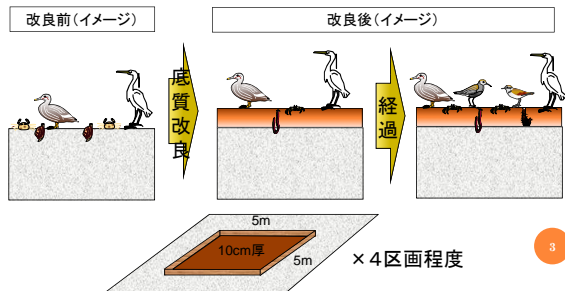
いであ株式会社

### 1. 底質改良試験の位置付け

- 保全すべき対象の一つ  
鳥類(シギ・チドリ類)が渡来(採餌)できる干潟環境の保全
- 谷津干潟の特徴  
ゴカイ類を中心とした餌の豊富な泥干潟
- 課題の一つ  
泥の流出に伴う干潟の砂質化(東側)
- 想定される原因
  - ・ 陸域からの流入が無くなった
  - ・ 埋め立て以降、長い年月が経過
- 検証すべき点
  - ・ 砂が泥になると、干潟内の生き物や鳥の利用がどう変わるのか?
  - ・ 泥を入れれば、泥質環境が形成・維持されるか?
  - ・ 鳥に利用されるか?

### 2. 底質改良とは?

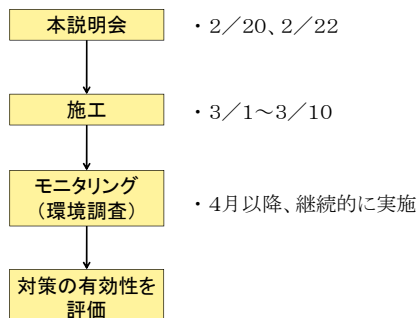
- 底質改良とは?  
⇒ 東側の砂質化した干潟面に、現地の泥と粒度が近い泥を乗せる



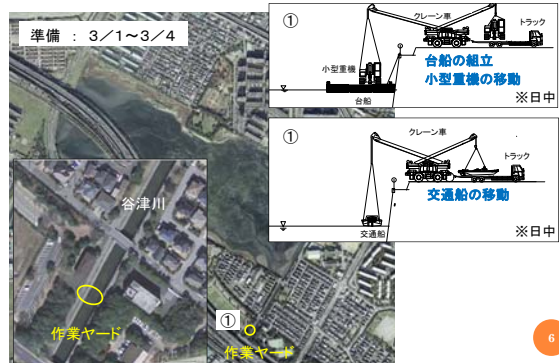
### 3. なぜ底質改良を先行的に試験するのか?

- 段階的・継続的な試験が必要  
過去の実証試験(底質改良)の事前調査結果によれば、底質改良により創出した泥質環境は、干潟内の泥部と同等の機能(底質の性状、底質中の生き物)を有している。  
規模を拡大した場合の影響と効果をみるための、継続的な試験の実施・モニタリングが必要
- 対策の有効性を現地確認  
調査や検討も大切だが、対策の有効性を現地で確認してみることが肝要
- 地域住民との協働の仕組みづくり  
今後、現地で具体的な取り組みを住民と一緒に進めていくための仕組みづくりが重要

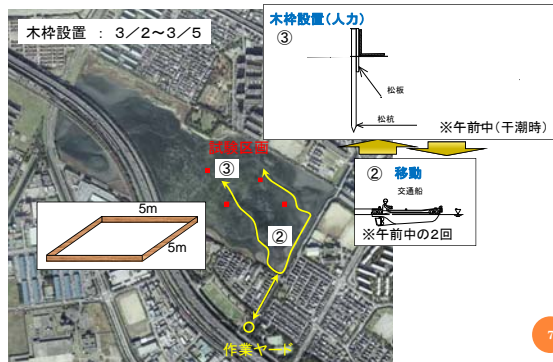
### 4. 底質改良試験の概要



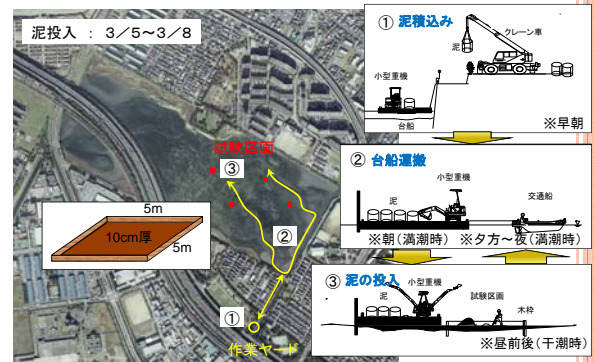
### 5. 底質改良試験の施工内容



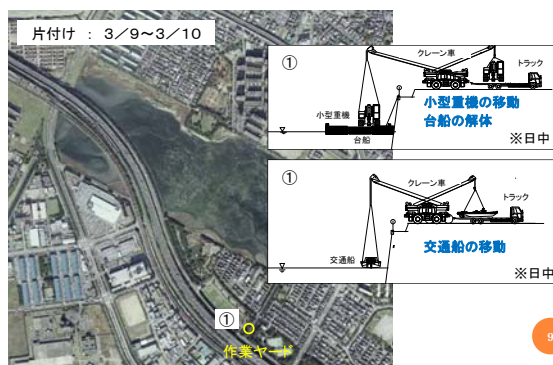
## 5. 底質改良試験の施工内容



## 5. 底質改良試験の施工内容



## 5. 底質改良試験の施工内容



## 6. 底質改良試験による影響

### ○ 施工による影響

- ・ 船の航行に伴う、騒音(エンジン音)の発生  
⇒ 潮が弱まった時に、低速度で航行
- ・ 泥の投入に伴う、濁りの発生  
⇒ 干潮時に泥を投入することで、濁りの発生を防ぐ
- ・ 侵入による干潟面の攪乱  
⇒ 満潮時に船で移動することで、干潟への影響を低減
- ・ 立ち入りによる鳥への影響  
3月に施工することで、シギ・チドリ類への影響を低減

## 7. 底質改良試験による効果

### ○ 検証ポイント

- 現在の干潟面に泥を乗せることで、
- ・ 泥質環境は短期的に維持されるのか?
  - ・ ゴカイ類が生息するのか?
  - ・ 鳥類(シギ・チドリ類)に採餌されるのか?
  - ・ 効果は長期的に維持されるのか?

⇒ 底質の性状、底質中の生き物、鳥類による利用について、  
継続的なモニタリングを行う

⇒ 底質改良の有効性について評価を行う。